

大切にしたい自分や友達の心と体

6年生 特別活動



指導の  
ポイント

○個人情報やSNS等で不特定多数の人に知らせることを避けることで、トラブルや性被害の危険から自分や友達を守るということを再確認し、安全な行動を自分で判断できる力を育むことができるようにする。

本授業の  
位置付け

小学校学習指導要領との関連

第6章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

2 内容 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

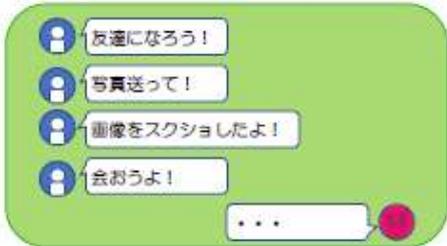
指導計画

時	主な学習活動	ポイント・工夫
1	<p>○人との体と心の距離感</p> <p>・「相手を思いやる距離感をもつことが、安心できる関係をつくる」ことを学び、次時につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体には距離感があるという認識を身に付け、他の人の気持ちを尊重した意思決定と行動選択ができるようにする。</li> <li>・文部科学省教材（小学校高学年用）スライド資料を活用。</li> </ul>
2 本時	<p>○見えない相手とつながるときの危険</p> <p>○安全な意思決定</p> <p>・「自分も、友達も、知らない相手も傷つけないつながり方」について考える。</p> <p>・「見えない相手にも“心の距離”をもつことが大切」と再確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSなどで見えない相手とつながることの危険について考え、安全な意思決定と行動選択ができるようにする。</li> <li>・被害者・加害者・傍観者の三つの立場の視点を意識させる。</li> <li>・文部科学省教材（小学校高学年用）スライド資料を活用。</li> </ul>

※スライド・イラスト：文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材より引用

# 本時の展開

本時の目標 ○SNSなど見えない相手とつながる時に、自分や友達を守るための安全な意思決定や行動選択ができるようにする。

学習内容・活動等	留意点等
<p>○この写真、投稿しても大丈夫かな？ 誰でも見ることができるSNS… できるかな… ・投稿しても安全か判断すること ・危険を事前に察知すること</p> <p>○実際にどのような事件やトラブルが発生しているかな？ ①小学生のSNS起点犯罪被害の実態 ②SNS起因の性被害の事例 ③被害のうち「被害者発信」が7割の実態</p> <p>SNSのトラブルから自分を守るためにはどうしたらいいかな。</p> <p>○模擬チャットを見て意見を交流する。 SNS風のカードを使って、「こんなときどうする？」を話し合う。</p>  <p>知らない相手との距離感を考えると…</p> <p>名前や住所を書いてはだめだよ。</p> <p>友達が危険な状況だったら…</p> <p>大人に相談する。</p> <p>危険を察知</p> <p>安全な行動</p> <p>直接会ったら危険がありそう。</p> <p>下着姿や裸の写真は送っちゃだめだよ。</p> <p>「怖い」と思ったらすぐやめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報が特定されやすい写真を提示（AIで作成の写真資料）し、課題意識をもてるようにする。</li> <li>・実際のトラブル事例を簡潔に提示する。（恐怖を煽らず、自分のこととして考えさせる。）</li> <li>・性被害に関するものにも触れる。（具体的な表現はしない。）</li> <li>・判断の分岐点になるポイントについて考えることができるようにする。</li> <li>・電話や SNS でも大人に相談できることを知らせる。</li> </ul>
<p>「情報を守る（出さない）」「危険を避ける」「相談する」ことが大切</p> <p>○振り返りを書く。 自分や友達の心や体をどのように大切にしていこうかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見えない相手とも「心の距離感」が大切</li> <li>・加害者が悪いのであって、被害者は悪くない</li> <li>・困ったら、一人で悩まないで、必ず誰かに相談する</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市教育委員会作成の「相談窓口周知カード」の確認をする。</li> </ul>

※スライド・イラスト：文部科学省「生命（いのち）の安全教育」の教材より引用

## 本実践の成果と課題について

### 主体的な学びを意識した授業構成

教師からの一方的な知識の伝授に終始するのではなく、子どもの主体的な学びを意識して授業を構成することは、子どもが自ら考え、行動する「自己防衛力」や「対人尊重の態度」を養うために重要であると考えた。対話、ロールプレイ、事例分析などを通じ、「自分のこと」として学ぶことで、性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないための力をよりよく育むことができると考え、本実践で行った。

○ロールプレイ：「嫌なことを言われたら、どうやって断るか」「困った時にどう大人に助けを求めるか」をペアで演技する。

○クイズ・事例分析：SNS上のトラブルなどの身近な事例を読み、状況を確認しながら「何が悪いのか」「どうすれば防げたか」を話し合う。

○グループワーク：よりよい人間関係の距離感について可視化する活動を行ったり、相談先を全員で確認したりする。

### 実際の子どもの反応

SNSのやり取りを想定した模擬チャットを用いた話し合いの場面において、「全ての場面に危険が潜んでいるのでは。」と感じる子がいた一方、「これぐらいは大丈夫だよね。」と発言する子がおり、危険察知には個人差があることを痛感した。

困った時にどうするかを考える場面では、「親には言えないよね。」といった本音が出され、行動選択に至る思考の過程についても、自分のこととして考えている様子がうかがえた。

振り返りの学習カードには、「自分の心と体は自分だけのものだから、自分で決めていい。」「自分も相手も傷つかわないようにしたい。」「SNSには個人情報流さない。」「自分で解決できないときには、信頼できる大人に相談したい。」など、自他の尊重と主体的な意思決定に関わる記述が多く見られた。

### パートナー校との連携

今回の実践は、パートナー校（中学校1校、小学校2校※本校含め）との連携を図ったこともポイントの一つであった。パートナー校の小学校においても6年生児童に同じ教材を使用して本授業を実施してもらった。同じ内容を学習して進学させることは、9年間を通じた系統的・継続的なカリキュラム作成のためにも効果的であると考えた。

【パートナー校との連携の具体例として考えられること】

- ・教材、指導案の共有。 ・発達の段階に応じた内容・重点の共有。
- ・パートナー校の教員が意見を交流する機会（札幌教研春の研究集会等）で、討議テーマの一つに「生命（いのち）の安全教育」を設定する。

### 他教科、行事とのつながり

#### 【水泳学習との関連】

水遊び・水泳学習では、水着に着替える、肌を見せる、ふざけて身体に触れるという機会が増える。学習の前に、全学年で「生命（いのち）の安全教育」を実施する体制を整えていきたい。

#### 【宿泊的行事との関連】

宿泊的行事（宿泊学習・修学旅行）の事前学習で「心や体の距離感」について考えることができるようにしたい。自分や他人の心と体を大切にしようとする意識を高めることで、安心・安全な集団生活が実現できると考える。計画的に「生命（いのち）の安全教育」を行っていききたい。